

学生の参画

Student Engagement

川 口 昭 彦
大学評価・学位授与機構
特任教授

大学評価フォーラム

- ◆ 評価への取組 改善への取組 (2007.9.20)
- ◆ 大学評価の戦略的活用と方法 (2008.7.7)
- ◆ 内部質保証システムの充実をめざしたアカデミック・リソースの活用 – 個性ある大学づくりのために – (2009.8.3)
- ◆ 学習成果を軸とした質保証システムの確立 – 学習成果の効果的なアセスメント・可視化・発信とは – (2010.8.2)
- ◆ グローバル時代における新しい質保証 – 国際機関の取り組みからみえる「機能」とは – (2011.10.26)
- ◆ 「学び」からみる高等教育の未来 (2012.7.23)
- ◆ 学生からのまなざし – 高等教育質保証と学生の役割 – (2013.7.22)

大学紛争と学生参画の現状

- ◆ 1968年頃の学生叛乱は、西欧諸国、米国、日本などの大学において、同時多発的な現象であった。
- ◆ しかし、その後の「学生参画」に関する大学変革には、大きな差が観られる。
 - ❖ 学生に対するアンケート調査など、それらの結果を改善・向上に反映させる。
 - ❖ 学生の質保証への参画など。

1970年代の欧米と日本の比較

- ◆ 「68年からの学生叛乱」の最大の原因の一つは、大学の大衆化と思われる。
- ◆ 日本(とくに米国と比較して)では、大学進学率の急上昇が起きて日が浅く、学生の意識には旧来の使命感やエリート意識が強く残っていた。
- ◆ 欧米では、学生側はかなり現実的に妥協して、大学の制度改革などを遺した。
- ◆ 1970年代後半は、欧米では不況に陥った(ポスト工業化社会への移行期)が、日本では製造業を中心として工業化社会が進展した。
- ◆ 日本の学生運動は、「青年期の反抗」であり、社会に影響をほとんど与えない一過性のものとなった。

欧州における質保証と学生参画

- ◆ ソルボンヌ宣言・ボローニャ宣言(1998/1999)
欧州高等教育大臣会合により、欧州高等教育圏構想が承認
- ◆ 欧州高等教育圏における質保証の枠組み
 - ❖ ENQA(欧州高等教育質保証協会)の設立(2000)
 - ❖ ESGs(欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン)の策定(2005/2009)
 - ❖ EQAR(欧州質保証登録簿)の制度開始(2008)
- ◆ ESGsにおいて、質保証への学生参画を明記
内部質保証、外部質保証、外部質保証機関に関する基準とガイドラインに明記

質保証に関する欧州基準とガイドライン 第1部

(学生参画について記述がある基準・ガイドライン)

第1部 高等教育機関の内部質保証に関する欧州基準とガイドライン

1.1 *質保証の方針と手続*: 高等教育機関は、質の継続的向上のための戦略を策定・実施すべきである。(略)それらには、**学生**および他のステークホルダーの**役割が含まれるべき**である。

ガイドライン: 手続の記述には以下の点が含まれていることが期待される。(略)・質保証への学生の関与

1.2 *教育プログラムと学位の承認、監視、定期的レビュー*: 高等教育機関は、自らの教育プログラムと学位について、承認、定期的レビュー、監視に必要な公式のメカニズムを有すべきである。

ガイドライン: 教育プログラムと学位の質保証には以下が含まれていることが期待される。(略)・質保証活動への**学生の参加**

質保証に関する欧州基準とガイドライン 第2部

(学生参画について記述がある基準・ガイドライン)

第2部 高等教育の外部質保証に関する欧州基準とガイドライン

2.4 目的にあったプロセス: あらゆる外部質保証プロセスは、設定された目的と目標の達成に適したものとなるよう明確に設計されるべきである。

ガイドライン: 特に注目に値するのは以下の要素である。
(略) ・学生を参加させること

質保証に関する欧州基準とガイドライン 第3部

(学生参画について記述がある基準・ガイドライン)

第3部 外部質保証機関に関する欧州基準とガイドライン

3.6 独立性: 質保証機関は、それぞれの活動に対する自律的責任を有しており、その報告書の結論および勧告が高等教育機関、政府省庁、その他のステークホルダーなどの第三者の影響を受けてはならないという点において独立しているべきである。

ガイドライン: 質保証機関は、以下の方法を通じて独立性を示す必要がある。
(略) ・質保証プロセスの中で、高等教育の関連ステークホルダー、特に**学生(学習者)の意見**が求められるが、質保証の最終的な結論については質保証機関が責任を負う。

3.7 質保証機関が用いる外部質保証の基準とプロセス: 質保証機関によって用いられるプロセス、基準、手続きは事前に規定され、公表されるべきである。これらのプロセスは、一般に以下を含んでいることが期待される。(略) ・質保証機関が決定した専門家グループ(適宜、**学生(集団)を含む**)による外部評価と訪問調査。

欧州における質保証への学生参画事例

国名	取り組み事例
フィンランド	・学生が質保証に関するアンケート調査の策定や調査分析を実施。 ・評価関連ワークショップでは、学生が意見を述べたりフィードバックを行っている。 ・フィンランド高等教育評価審議会(FINHEEC)の業務や人員構成は法令によって定められており、その中で学生に関わりも言及されている。 ・大学運営について、ボードメンバーは教授、教員・研究者・その他の職員、学生から構成されなければならない(大学法)。 ・FINHEEC は設立当初から、評価のすべての段階において、可能な限り学生を参画させている。
英国	・大学が提出する自己評価書の添付資料として、学生が学生の立場で大学の質保証に関して意見を作成し、質保証機関に提出。但し、スコットランドにおいては、大学は学生と協力して自己評価書を策定。 ・大学の意思決定組織に学生を入れる大学もある。 ・スコットランドでは、専門家グループに全国学生ユニオンの学生代表が含まれる。 ・英国高等教育質保証機構(QAA)の理事会(17名)のうち2名が学生理事。 ・QAA は現在90名の学生評価者を有する。

参考文献: ENQA Report 2006, Devin Chun-Jung Wu, TWEA, Taiwan (APQN 総会2013の発表より抜粋)、FINHEEC および QAA のウェブサイト

質保証における学生参画形態

- ◆ 全国レベルの質保証機関のガバナンスに参画
- ◆ 第三者評価の評価チームの委員あるいはオブザーバー参加
- ◆ 自己評価書の作成に参加
- ◆ 第三者評価の評価にかかる意思決定プロセスに参加
- ◆ フォローアップ・プロセスへの参加

欧州の質保証における学生の役割

◆ 教育機関レベル

- ❖ 情報提供者
- ❖ 自己評価書の準備など内部質保証プロセスに参加

◆ 第三者評価レベル

- ❖ 情報提供者
- ❖ 第三者評価の評価パネルのメンバーとして参加

◆ 質保証機関のガバナンスレベル

- ❖ 評価・アクレディテーションのプランナーとして参加
- ❖ 第三者評価機関のガバナンス組織のメンバーとして参加

◆ その他

- ❖ 質保証政策作りにおける相談者
- ❖ 正式のプロセスには入らないが、間接的な情報提供者

学生参画のメリット

- ◆ 学生の参画は、様々な付加価値を産み出す。
 - ❖ 学習の質を評価 (Assessment) する過程で基本的な役割を担う。
 - ❖ 多様化の理解、学生に対する教育的効果。
- ◆ 質保証プロセスの向上が期待できる。
 - ❖ 従来にはなかった視点など、評価報告書の内容が充実する。
 - ❖ 学生の視点が、新しい解決の糸口として期待できる。
- ◆ 教育機関、質保証機関にとって、質向上に役立てることができるという認識が重要。

まとめ:このフォーラムの目的

- ◆「学習成果」が質保証の重要なテーマであり、学習の主役である「学生」の参画は必要条件となる。
- ◆ユニバーサル化段階に突入した高等教育において、多様化するニーズを把握するために積極的な「学生」の参画は重要である。
- ◆質保証プロセスに学生の参画を求める方向性は国際的な流れである。
- ◆参画の形態は多様である。
- ◆わが国でも、どのような学生参画を求めていくかを明確にする必要がある。

参考文献

大学評価・学位授与機構 国際連携・調査事業 http://www.niad.ac.jp/n_kokusai/

Nordic Project on Student Involvement. The Finish Report, FINHEEC, 2003

http://www.finheec.fi/en?C=231&product_id=178&s=56

Student involvement in the processes of quality assurance agencies, ENQA, 2006

<http://www.enqa.eu/files/Student%20involvement.pdf>

Standards and Guidelines for Quality Assurance in the European Higher Education Area, ENQA, 2009

[http://www.enqa.eu/files/ESG_3edition%20\(2\).pdf](http://www.enqa.eu/files/ESG_3edition%20(2).pdf)

The European Higher Education Area 2012: Bologna Process Implementation Report, EACEA, 2012

<http://eacea.ec.europa.eu/education/eurydice>

QUEST for Quality for Students: Going Back to Basics, ESU, 2012 <http://www.esu-online.org/asset/Organisation/6178/QUEST-for-quality-for-students-publication-Part1.pdf>

Student Engagement at QAA, 2013

<http://www.qaa.ac.uk/Partners/students/student-engagement-QAA/Pages/default.aspx>